

完了報告書（平成 23 年度）

提出者 サンドロヴィッチ・ティムール

提出年月日 平成 24 年 05 月 02 日

【プロジェクト名】

和文

トランジショナルな社会における親密圏と公共圏の同時的变化：

家族、コミュニティ、国家、市場

— 中国、ベトナム、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、ウクライナを事例として —

英文

Transformation of the Intimate and Public Spheres in Transitional Societies:

Family, Community, State and Market

- Taking China, Vietnam, Hungary, Poland, Slovakia and Ukraine as Case Studies

【メンバー構成】

研究代表者 サンドロヴィッチ・ティムール

幹事 ライカイ・ジョンボル

メンバー 菅原 祥、デブナール・ミロシュ、郝 洪芳

【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究企画においては、昨年度開始した「ポスト社会主義社会」（もしくはトランジショナルな社会・体制転換期の社会）における親密圏と公共圏の同時的变化に関する調査研究を継続し、研究の範囲を以下の 3 点に関して広げることがを計画している。

- ① 昨年度の調査研究においては、家族とコミュニティとの関係性に重点が置かれていたが、今年度の調査研究においては、計画経済から市場経済へと変化しつつあるトランジショナルな諸国（東欧と東アジア）における家族政策や貧困問題にも焦点を当て、家族と外部世界（国家、市場）との関係性をより系統的に検討する。
- ② 昨年度の調査研究の結果を基にして、東欧諸国で見られない中国の「社区コミュニティ」における家族と外部世界との関係性をさらに分析する一方で、中国と同じく「社区（コミュニティ）」が国の最小管理単位であるベトナムの場合でも検討する。
- ③ ハンガリーの社会哲学者である E.ハンキッシュらの「空虚な個人化」論と、旧ソ連のコンテクストで誕生した V.パペルニーの「文化 I & 文化 II」論を家族社会学に適用したウクライナ人の L.マレスの論説を軸として、トランジショナルな国々で台頭した特徴的な社会理論をさらに検討していき、それらをもとにしてトランジショナルな社会における親密圏と公共圏の関係性をより適切に把握する理論を構築する。

【活動の記録】

6月

第一回研究会：研究企画の実行などに関する打ち合わせ

7月

ハンガリー調査

第二回研究会：ハンガリーの調査報告

8月

中国調査

第三回研究会：中国の調査報告

9月

ポーランド調査

第四回研究会：ポーランドの調査報告

10月

スロバキア調査

第五回研究会：スロバキアの調査報告

11月

国際シンポジウム開催の準備

12月 10日

国際シンポジウム “Family and Social Change in Socialist and Post-Socialist Societies: East Europe and East Asia” 開催

1月

ウクライナ調査（キエフ、4人へのインタビュー）

第六回研究会：ウクライナの調査報告

2月

ベトナム調査

第七回研究会：ベトナムの調査報告；2011年度のワーキングペーパーに関する打ち合わせ

【成果の概要】（800 字程度）

2011 年度で 2 年目を迎えた本研究プロジェクトの現在にいたるまでの展開を整理すると、大きく 3 つの段階に分けることができる。第 1 段階は、ハンガリーにおける家族の変化を事例とし、2010 年度に行われた国際シンポジウムや同じく 2010 年度に提出された成果報告集にまとめられたものである。第 2 段階においては、2011 年度行われた様々な海外調査とともに本年度に開催された国際シンポジウムが重要なものである。そして今後の第 3 段階では、この国際シンポジウムで得られた成果を利用し、プロジェクトの協力者数をさらに増やし、共同著作に向けて様々な作業を進めることが目的である。

第 2 段階においては、2010 年度開始した「ポスト社会主義社会」における親密圏と公共圏の同時的变化に関する調査研究を継続し、研究の範囲を以下の 2 点に関して広げた。

(1) 家族政策や貧困問題にも焦点を当て、家族と外部世界（国家、市場）との関係性をより系統的に検討する。(2) トランジショナルな社会における親密圏と公共圏の関係性をより適切に把握する理論を構築する。

こうした研究の成果が、2011 年 12 月に行われた、“Family and Social Change in Socialist and Post-Socialist Societies: East Europe and East Asia”と題目された国際シンポジウムである。このシンポジウムでは 7 ヶ国からの 11 人の発表者が、家族・コミュニティ・国家・市場の関連性に関して報告を行った。ここでの多様な報告と、それについてなされた実りある討議が、本プロジェクトの第 3 段階、あるいは最終段階へ向けての予備的な理論・調査枠組みを準備するものとなった。それを基に、海外の家族研究者の協力の下で、東アジア（中国・ベトナム）と東ヨーロッパ（ロシア・ウクライナ・ポーランド・スロバキア・ハンガリー・ルーマニア）の社会を対象とし、社会主義近代化とその体制転換期における親密圏と公共圏の同時的变化を明確にすることを目的としている。具体的には、家族主義と個人化をキーワードに、各社会において家族変動に関する実態的变化と価値観との葛藤 (1)、ジェンダー関係の変容 (2)、家族主義 (family dependency) のありよう (3) から詳細な分析をおこなう。その結果から、国家権力の縮小とともに市場化（市場経済への転換）及び市民社会の形成過程と、家族関係・友人関係をはじめとする親密圏との関係性を明らかにし、(元)社会主義諸社会の近代化・脱近代化をより正確に把握すると考える「修正した第 2 の人口転換論」の可能性を検討する。

【通信欄】

(研究代表者記入)

| | | | |
|--------|------------------------------|----------------------------------|---|
| プロジェクト | <input type="checkbox"/> 次世代 | <input type="checkbox"/> 次世代ユニット | <input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究 |
| 経費 | 予算額 | 1200 (千円) | 実績額 1200 (千円) |

様式 2

最終成果報告書（ワーキングペーパー）のホームページ公開に関する
許諾書

研究成果タイトル

トランジショナルな社会における親密圏と公共圏の同時的变化：

家族、コミュニティ、国家、市場

——中国、ベトナム、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、ウクライナを事例として——

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」に提出する上記の最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）の PDF ファイルを同プログラムのホームページに公開することについて、下記のように返答します。

2012 年 05 月 02 日

最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）

の執筆者全員のお名前（自署捺印）

サンドロヴィッチ・ティムール

ライカイ・ジョンボル

菅原祥

ミロシュ・デブナール

郝洪芳

記

許諾する。

部分的に許諾する。

許諾する部分を具体的にご記入ください。

■ 下記の理由により許諾しない。

■ 調査対象者の個人情報保護のため

□ その他（具体的に理由をご記入ください）